

山地防災にかかる減災対策の推進

農政環境部農林水産局治山課

平成23年度の増水期に備えて、県民が山地災害への警戒や避難行動に役立てるため、山地災害危険情報等をわかりやすく提供するとともに、各種イベント、防災研修などの普及・啓発活動を通じて、地域防災力の向上と県民の自助意識の喚起を図ります。

1. 兵庫県CGハザードマップによる山地災害危険地区の周知

土石流、山崩れ、地すべりなど、自宅周辺に潜む危険な箇所を県ホームページ「地域の風水害対策情報」で知ることができます。また、洪水、津波、高潮による浸水範囲や避難に必要な情報なども掲載されています。

見たい地点を郵便番号や住所、地図から簡単に検索ができるほか、①雨量や河川の水位、河川監視画像、土砂災害警戒情報等のリアルタ

兵庫県HPのトップページからも直接アクセスできます

地域の風水害対策情報



ム情報や、②災害の恐ろしさや危険度のイメージや防災学習のコーナーなど役立つ情報が満載です。

2. 「豊かなむらを守る月間運動の実施

毎年6月を「豊かなむらを守る月間」と定め、地域の住民と行政、関係団体が連携して、山地災害危険箇所のパトロールや治山施設の点検を実施し、地域防災力を高めています。特に、近年の豪雨による被災箇所等を中心に約800箇所を重点的にパトロールし、災害防止に努めています。



3. 山地災害情報協力員の活動

県下で、212名の地域に密着した災害ボランティア(山地災害情報協力員)が登録されています。講習や現地研修を通じて、山地災害発生時において迅速な情報収集や人家裏山などの危険箇所の防災パトロールの活動を行っています。23年1月高砂市で発生した大規模な林野火災

では、残った樹木の状況や火災跡の土砂流出の危険性などの情報提供を受け、復旧対応に役立てています。

4. 学んで体験して備えよう!

「六甲山の災害展」の開催

風水害の恐さと土砂災害に対する備えの大切さを学んでもらうため、6月7日から約2週間にわたり、人と防災未来センターにおいて「六甲山の災害展」を治山林道協会の協力を得て開催しました。

会場では、昭和13年の阪神大水害や阪神淡路大震災の写真に加え、佐用町を襲った21年8月の記録的な豪雨時の被害写真を展示しました。また、災害に備えるためのポイントをわかりやすく解説したパネルを展示し、注意を呼びかけました。

小中学生等に関心があったのが、時間雨量の違いが体験できる「カップくん(写真上)」とジオラマを使った「土石流模型実験装置(写真下)」。実演を通じて、土石流の迫力や治山ダムの効果を目と耳で感じ、学んでいただきました。今年度は、先の東日本大震災発生により、防災への関心が高まり、昨年の2倍以上の来場者となり、普及啓発が大いに図られました。

